

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和8年3月4日
札幌市立伏見小学校

1. 本年度の重点目標

- 学校と家庭・地域の連携のもと、子ども自らが、心の風船（かしこい・やさしい・たくましい・ただし）を膨らませる伏見小学校

本年度の経営方針

- 子どもが安心して通える伏見小学校
- 子どもが学ぶ力を高める伏見小学校
- 子どもの豊かな心を育む伏見小学校
- 子どもの健やかな体を育む伏見小学校
- 保護者・地域と共に歩む伏見小学校

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

重点	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
安心して通える	<ul style="list-style-type: none"> ○ 人間尊重の教育 ○ いじめ、不登校ゼロ 	B	<p>自己肯定感・自己有用感をより高めていくために、他者と共に学ぶことの価値を見いだせるように日々の学習や生活の振り返りの充実を図る。</p> <p>また、シャボテン強化週間、児童相談週間を設定し、子ども一人一人と対話をする時間を十分に確保することで、不安や困りを解消するとともに、一人一人が大切にされていると感じる学校となるようにする。</p>	B	B
学校関係者評価委員会による意見		<ul style="list-style-type: none"> ・不登校に関して、学校に通えるだけで十分と考える。知識を身に付けることも大事であるが、シャボテン活動を通して自分心や体と向き合う時間を確保する習慣は大人になっても活けると感じた。 ・85%以上の子どもが「自分異はよいところがある」としていることは、とても素晴らしいと思う。この数値が更に上がるように期待している。保護者の「子どもが安心して学校へ通っている」との評価が高く心強く思う。 ・先生方が子どもたちに真剣に向き合おうとしてくださっていることに敬意を表すると同時に、一人の先生で子どもたちと向き合うことの限界性に対し、より複数の先生方が対応できるシステム構築が目指されていけばと願っている。（生方のご負担の軽減の観点からも） 			
学ぶ力を高める	<ul style="list-style-type: none"> ○ 確かな学習規律の確立 ○ 教科と子どもの発達の両面からの授業づくり 	A	<p>どの子ども主体的に学ぶことができるように、子どもが学ぶことの価値を感じられるような授業を目指している。学ぶことの価値は、学びの結果の変容を自覚することと、他者と共に楽しく学ぶことの延長にある。そこで、発達の視点と、教科の資質・能力の視点からの授業づくりを行っている。そのために、1年生のスタートカリキュラムを出発点に6年間の学びの積み上げを意識したカリキュラム・マネジメントの確立を目指す。</p>	A	A
学校関係者評価委員会による意見		<ul style="list-style-type: none"> ・「分からないこと」をそのままにしない姿勢は高く評価したい。 ・主体的な学習への取組に関しては、保護者は理想が高いのだろうか。自ら疑問や課題を見付けて自分なりの方法で解決していく力を高める教育が継続されていくことを願う。 ・多様化する社会において、答えのない問いと向き合う力がより求められてくるだろう。先生方が創意工夫しながら授業を行ってくださることが、何より子どもたちの生きる力の養成につながっていくことと信じている。 			

<p>豊かな心を育む</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 温かい人間関係づくり ○ 自己調整力を高める 	<p>B</p>	<p>他者との温かい関係づくりのために、異学年交流活動（サルビア活動）を位置付けている。この取組を活性化するために、児童活動の時間として活動時間を確保する。更に、5・6年生の高学年が役割をもって取り組むだけでなく、各学年が役割を自覚して取り組むことができるよう活動設定、声掛けを行う。</p> <p>自治的な活動を推進するために、伏見中学校区での児童生徒の交流など、連携した取組を行う。</p>	<p>B</p>	<p>B</p>
<p>学校関係者評価委員会による意見</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・「伏見中学校区」としての活動が盛んになれば、一層異学年交流活動が盛んになり、それぞれの学年での自覚と意識が高まるのが期待され、より豊かな情緒と感性が育つと思う。 ・「人の役に立つ人間になりたい」とする子どもが91%以上いることは素晴らしい事である。具体的にどんな行動をするとよいのか、いろいろ考えてほしいと思う。時間の使い方やルールについても学びの場が必要である。 ・異学年交流によって心を育むことは、カリキュラムやプログラムとしては、どうしても限界があるように感じる。日常からのやり取りを通して、自然と育まれていく思いやりが大切だと思うからである。その意味では、日頃からお互いに行き来できる環境が作れないかと考えさせられている。 			
<p>健やかな体を育む</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 健康に対する意識を高める ○ 体育の授業の充実 	<p>A</p>	<p>子どもの体力向上及び運動への意欲を高められるように、引き続き各種運動週間を設定する。来年度は、子どもにとって、充実感のある運動週間とするために、時期や内容の改善を検討している。また、自ら考え、行動する機会が生まれるよう子どもが自由に体を動かしたり、自分で過ごし方を選んだりすることができる自主自立時間を継続するとともに、自治的な活動と連携することによって全校で運動への意識を高められるようにする。</p>	<p>B</p>	<p>A</p>
<p>学校関係者評価委員会による意見</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・体育の授業を楽しんでいる児童が多いのは素晴らしい。具体的な、体格等の数字は不明だが、きっと全国や全道、石狩の平均以上だと確信している。 ・「運動やスポーツが好き」「体育の授業は楽しい」と思う子どもの割合が全国を上回っているのは、素晴らしい。運動やスポーツを通して、他者との関わりやルール、チームワーク等を学んでほしい。 ・ハンディキャップをもつ子どもたちも一緒に学ぶインクルーシブな教育が求められる中、“健やかな体”という言葉の使い方には配慮が必要かと思う。同時に、ハンディキャップをもつ子どもたちも一緒に活動する中でこそ、真の意味での“健やかさ”を学べるとも思う。 			
<p>保護者・地域と共に歩</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の人材や施設の活用 ○ 社会参画意識を高める 	<p>B</p>	<p>地域と自分との関わりを子ども自身が意識できる教育活動を目指して取り組んでいる。来年度は、生活科や総合的な学習の時間の改善を目指し、内容を精選していく。その中で、地域を有効に活用した授業を位置付け、地域の方との関わりが生まれる場面をつくるようにする。また、学習が単年度だけでなく継続していけるようにする。次年度は、CSが動き始めるので、学校の教育活動と地域の接点を広げるためのきっかけが作れるようにする。</p>	<p>A</p>	<p>B</p>
<p>学校関係者評価委員会による意見</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・「子どもたちが大人に聞きたいこと」、例えば「どうして大学に行こうと思ったのですか」等に、地域の人間（大人）が答えるような場面があればおもしろいと思う。「職業を選んだ理由」とか、「どんな本を読んでいますか」とかおもしろい活動になりそうな気がする。また、テーマを決めて大人が話すというパターンも考えられる。 ・「地域の一員である」「地域の人たちにも支えられている」と感じる子どもがより増えるように、地域での活動や地域との交流の場が増えることを願う。 ・保護者や地域と一緒にどのようなことを行っていくことができるかを、教師レベルで考え、模索しようとしてくださっている先生方がおられることを嬉しく感じている。CSが始まるが、CSのための活動が組まれるのではなく、既にある地域との連携を深めることで、地域全体で子どもたちの育ちを喜んでいける社会に向かっていくことができればと願う。 			